

ヒトは何を食べてヒトになったか（２）

世界の主要な農業・農作物の起源

吉田信威

（前回の要約）

（１）原始的な「サル」の出現

① 恐竜が跋扈していた時代のほ乳類

サル・ネズミ・ウサギの共通祖先（当時の哺乳類としては比較的原始的な部類）→ 元々は夜行性、地上で昆虫等を食べていた。

② これらの中で地上での競争に敗れたもののうち樹上に活路を見いだしたものが「サル」の祖先となった。

③ 食性：昆虫主体から果実・若葉等の植物質へ

（２）サルからヒトへの進化

① 草原（地上）に食を求める。

果実、穀類、植物の根（イモ類）

大型～小型獣、鳥類、魚類、貝類、昆虫

② 火の利用

単発的な使用：諸説あり～170 万年から 20 万年前まで

日常的な使用：約 12 万 5 千年前の遺跡から日常的に火を使用した痕跡

1. 狩猟採集時代の「食」

（１）ホモ・サピエンスの全世界への移動～条件による食性の変化

① それぞれの環境条件で得られる食糧資源を食べて命をつないだ。

元々雑食性であり、かつ広範囲な動植物を食物としてきた。

人間の知恵～工夫

② 条件による食べものの違い

温暖多雨条件

→ 植物質の食料を採集する割合が大きい。加えて魚介類も

寒冷又は乾燥条件

→ 動物を狩る割合が大きい

（２）日本の古代では（石器時代～縄文時代）

① 木の実

クリ、ドングリ、トチ、クルミ

ヤマモモ、ツバキ、タブノキ、カジノキ、クロモジ、シャリンバイ 等

ヤマブドウ、サルナシ、ヤマグワ、キイチゴ

② いも類、根菜類

ジネンジョ、クズ、ワラビ、ウバユリ 等

縄文後期に南方からサトイモが伝わる。

③ 陸上動物

大型動物

ナウマン象、マンモス（いずれも旧石器時代に絶滅）

中～小型動物

クマ、イノシシ、シカムササビ、リス、ネズミ 等

鳥類

キジ、カモ、アホウドリ

④ 魚介類、海獣類

（内水面（河川、湖沼））：淡水魚、貝類

（海（暖流域））：各種魚類（タイ、サメ等）、イルカ・小形鯨類、貝類

（海（寒流域））：サケ、トド、アザラシ、オットセイ

(3) 意外に豊かな“狩猟採集”生活

日常的には“採集”による食べ物が主体

（寒冷地では狩りによる“獲物”の割合が高まる）

“狩り”による獲物は集団内で分配

通常はこれで十分な栄養摂取ができた

時間的余裕→“文化”の芽生え（壁画等）

3. 農耕のはじまり

(1) 農耕が始まる“きっかけ”

“豊かな狩猟採集”→そのためには広大な土地が必要

温暖な気候＝安定した食糧供給 →人口の増加 →土地が不足してくる

気候の変動（一時的な寒冷化）→食糧不足・安定した食糧供給が必要

(2) 半栽培

① 穀物（＝草の種子）

遠くから穀物（＝草の種子）を採集してくる

持ってくる途中で種子がこぼれ、そこに生える

居住地の近くで選別する際に種子の一部がこぼれる

→ 居住地の近くでも生えるようになる

② 果物（果樹）

大きい果実を採集してくる。→種子が居住地の近くに捨てられる

居住地の近くには元々の野生のものより大きな実のなる木が生えるようになる。

大きな実のなる木（花）同士が交配して更に大きな実をつける個体が生じる。

→半栽培段階で品種改良が始まる。

4. 世界各地における農耕のはじまりと農作物

(1) 中国・長江流域

米

河姆渡（かぼと）遺跡（BC6000 年～BC5000 年頃）より稲作の痕跡が発見された（7～8000 年前）。

その後、彭頭山遺跡より BC6500 年頃（約 8500 年前）とされるもみ殻等が発見された。

更にそのルーツを東南アジア（ベトナム・マレー半島・インドネシアを含む地域）に求める考えもある。

（温帯）ジャポニカ、熱帯ジャポニカ（ジャワニカ）、インディカ

(2) 西アジア（肥沃な三日月地帯）

コムギ

コムギの原種は中央アジアのコーカサス地方からイラクにかけてが原産地とされる。

9000 年前ないし 1 万 5 千年前頃に 1 粒系コムギの栽培始まる。

→クサビコムギと交雑し 2 粒コムギとなる。

BC 5500 年頃 2 粒コムギは野生種のタルホコムギと交雑し、パンコムギが生まれた。

コムギはメソポタミア地方（肥沃な三日月地帯）で盛んに栽培され、

BC 3000 年頃にはヨーロッパや各地に広まっていった。

オオムギ

イラク周辺に生えている野生種を改良。1 万年前頃には既に栽培されており、当初は食用（粥、煎って粉にしたもの）が主だった。

古代エジプトでも主食のパンを焼くのに使われた。

ライムギ、エンバク

ライムギやエンバクは元々は雑草であり、コムギの栽培に伴い、小麦畑の雑草となった。コムギがヨーロッパに伝わり、更に寒冷地に栽培が広がると、コムギよりも寒冷地での適応性が高かったことから、栽培作物化されるようになった。

(3) マレー半島から東南アジア（根菜文化圏）

タロイモ（サトイモの類）、ヤムイモ（山芋の類）、
バナナ、パンノキ、サトウキビ

(4) 中国・黄河流域

アワ、キビ

(5) アフリカ（サバンナ農耕文化）

多様な雑穀類

モロコシ、テフ、フォニオ、トウジンビエ、シコクビエ、
アフリカイネ

その他の作物

ヤムイモ（アジアのものとは同属別種）、ゴマ、ササゲ、ヒョウタン

(6) アメリカ大陸

トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ、キャッサバ、カボチャ、
ラッカセイ